

牛にもメタボがある？

畜産試験場

ヒトの肥満度を見る目安の一つに身長と体重から算出するBMI（ボディ・マス・インデックス）があります。では、大きな牛はどうやって肥満度を調べるのでしょうか。体重を量ることは容易ではありません。また、乳牛は妊娠期間が長く（約280日）、胎児の重さも大きいため、体重だけで太っているかどうかを判断することはできません。乳牛の栄養状態はBCS（ボディ・コンディション・スコア）で判断します。

BCSは乳牛の下半身を観察し、腰の骨の出っ張り具合や腰回りのじん帯の見え方で、極端なやせ体型から極端な肥満体型までを2.0から5.0まで0.25刻みで区分します。

乳牛は私たちヒトにミルクをもたらすために、年に1回お産をします。その体は胎児を成長させ、子牛を出産し、ミルクを出すことで、体内にエネルギーを貯めたり、そのエネルギーを消費したりと目まぐるしく変化します。お産の直後にはミルクの生産量が最大になるため、がりがりにやせてしまうこともあります。そんな状態が続くと、様々な病気になってしまうこともあるのです。と言っても太りすぎもいけません。難産や、肝機能障害など病気の原因になるからです。

分娩時のBCSは3.0から3.5くらいが望ましく、やせすぎ、太りすぎともに良くありません。乳牛の管理者はエサの質・量を調整することで、BCSを2.75から3.5の範囲に保ちます。これがBCSに基づいた乳牛の栄養管理であり、牛飼いの腕の見せ所です。



BCS 2.75のスマートな牛（左）とBCS 3.5のぽっちゃりした牛（右）

担当者	有野 陽子	電話番号	0263-52-1188
-----	-------	------	--------------